

家族で
学び、
楽しむ

邦楽教室

ながうた
長唄、
とぎわづ
常磐津、
ぎだゆう
義太夫…
とこが
ちがうの？

日本の
伝統的な音楽を
聴き、歌って
みませんか！

令和7年3月8日[土]
タワーホール船堀
大ホール

全席自由

第一部

開場10:30 / 開演11:00

第一部は家族向けのプログラムです。

チケット料金 子ども、付添保護者とも **1,000円**(税込)◎全席自由

販売開始 令和7年1月8日(水)より

申込先 邦楽実演家団体連絡会議(長唄協会内)

電話:03-6279-4749(平日10時~17時)

メール:hougakukaigi@gmail.com

メールにはご希望の部(一部、二部、三部)、チケット枚数、住所(含む郵便番号)、氏名、電話番号を記載してお申し込みください。後日チケットを郵送いたします。

インターネット イープラス <http://eplus.jp/>

※出演各団体並びに出演者からもお求めいただけます。
※当日券もごさいますができるだけ事前にお求めください。

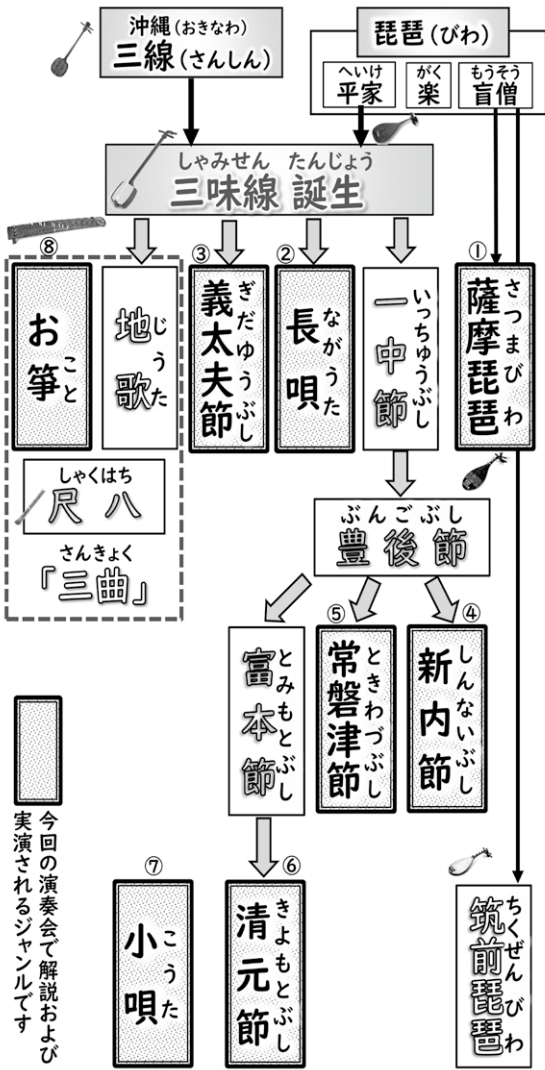
当日券 当日10時30分より会場窓口にて発売

【主催】邦楽実演家団体連絡会議 出演団体 (一社)義太夫協会/清元協会/新内協会/常磐津協会/(一社)長唄協会/(公社)日本小唄連盟/
日本琵琶楽協会/(公社)日本三曲協会

【助成】東京都・(公財)東京都歴史文化財団(都民芸術フェスティバル主催)

【後援】江戸川区/公益財団法人日本伝統文化振興財団

2025 都民芸術フェスティバル 参加公演



◆ 私たちの普段の生活の中に音楽はあふれています。『鳥のさえずり』や『風の音』にも音楽の要素が含まれていますし、テレビやラジオからはたくさん種類の音楽が流れています。人類が発見して今に至るまで進化してきた中で世界の国々ではその土地その土地に育まれた様々な音楽が作られてきました。

◆ 今回はわが国に現在まで伝わる伝統音楽の中から『邦楽』と呼ばれるジャンルをとり上げ、それぞれの音楽の特徴について解説と実演を鑑賞していただきます。

◆ わが国の古墳時代の埴輪の中には声を出して歌っていると思われるものや、実際に楽器を演奏しているものがあり、かなり古くから音楽と呼べるものが存在していました。音として残っている音楽としては、中国大陸や朝鮮半島から伝わり、日本の様式として宮廷や寺院・神社で演奏されてきている『雅楽』や、仏教音楽の『声明』が古い時代のものとしてあげられます。

◆ 鎌倉時代には平家琵琶が始まり、楽器を伴奏にして物語を語るという『弾き語り』の形が一般に見られるようになります。琵琶を元に三味線が作られて江戸時代には今回紹介するような様々な三味線音楽が開き、また雅楽で使用されるお箏も、使う爪などが改良されて一般に演奏されるようになります。これらの音楽では唄は唄、楽器は楽器とそれぞれ分かれて実演することも行われるようになりました。

◆ このように楽器を伴奏に声を生かす音楽は、いかに日本人が言葉と声に魅力を感じ、表現の可能性を追求してきたかを物語っており、この声を支えるために三味線やお箏などが発達したことがわが国音楽の特色と言えるのではないのでしょうか。

◆ 今回はこの声、唄にスポットを当てて琵琶、長唄、義太夫節、新内節、常磐津節、清元節、小唄そしてお箏（箏曲）を鑑賞していただきます。一度聞いただけでは違いが分かりにくいものもあるかも知れませんが、邦楽には色々様々なジャンルがあるという点に気付いていただければと思います。

今回の演奏会で解説および実演されるジャンルです

第一部 10時30分開場 / 11時開演

◆ 薩摩琵琶 城山 石田克佳

◆ (歌唱指導あり) 長唄 勸進帳 杵屋 佐喜 稀音家 六四郎

◆ 義太夫節 菅原伝授手習鑑 喧嘩の段 竹本 越里 鶴澤 津賀榮

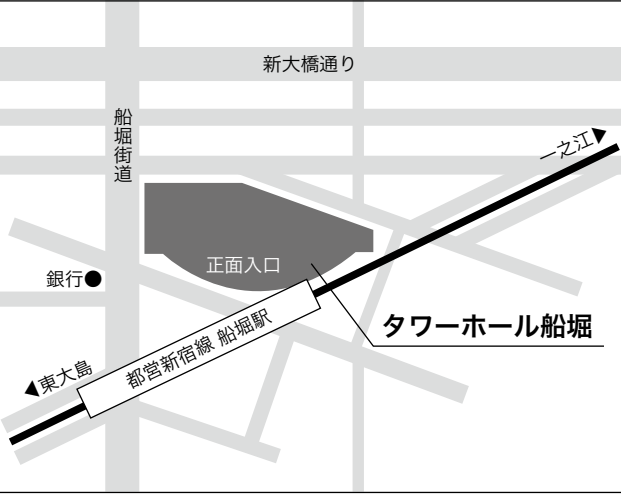
◆ 新内節 蘭蝶 岡本 宮之助 岡本 虎之助 岡本 文之助

◆ 常磐津節 将門 常磐津 若羽 太夫 常磐津 美寿郎

◆ 清元節 申西 清元 國恵 太夫 清元 斎寿

◆ 小唄 梅は咲いたか 雨や大風 千紫 巳恵佳 蓼胡 文雄

◆ (歌唱指導あり) お箏 白の声 朝香 麻美子



◎邦楽器体験コーナー

開演前、終演後に会場ロビーで三味線、お箏、尺八、鳴り物、琵琶に触れることができます

開演前10時30分から4階リハーサル室で江戸川区立南篠崎小学校三味線クラブ員の演奏披露があります。

午後2時から大人向けの第二部、第三部が始まります。

タワーホール船堀

東京都江戸川区船堀4-1-1
都営地下鉄●新宿線「船堀」駅 北口より徒歩約1分